

リカレント教育の本格展開——

職業実践力育成／履修証明プログラムの運用と検証

～ 創設6年のBP／自由度の高いプログラムの功罪／単位授与・認定／期間と学費 ～

【 11月12日（金曜日）開催 】

ご参画・ご派遣のお願い

職業リカレント教育の活性化・本格展開に向けて、大学・大学院・短期大学等の果たすべき役割が益々高まっております。正規課程の授業科目等を利活用し、“特定テーマを短期履修”できる教育プログラムの創意工夫が急務となっております。

2007年に「履修証明プログラム」、15年に「職業実践力育成プログラム（BP）」の制度がスタートしております。創設後、14年目と6年目を迎えた2つの制度の趣旨と運用の状況について、本セミナーでは検証への挑戦を行うものです。

まず、『履修証明プログラム』はたいへん自由度の高い制度設計となっております。その編成・実施について、「文部科学大臣の認可や届出の手続きは不要であること。なお、履修証明を行うことについて学則への記載は必須でないこと」と。総時間数（実時間）の下限は「120時間以上」から「60時間以上」へと2019年度から半減。また、同年8月から学部段階で「履修プログラムへの単位授与」が可能となり、さらに現在、大学院段階における単位認定に向け進行しております。

今週4日（月）に公表された、2019年度の「大学における教育内容等の改革状況」調査によると、「履修証明プログラム」は国立47校、公立19校、私立117校の計183校（全体の24.0%）で444プログラムが開設され、受講者数7,490名、証明書交付者数4,609名となっております。

一方、「職業実践力育成プログラム（BP）」認定制度は、文科省への申請業務を要し、正規課程（専攻科・別科を含む）又は履修証明プログラムで構成され、「女性活躍」「地方創生（地域活性化）」「中小企業活性化」「DX（AI・IoT等）」等の実践的・専門的な10テーマが設定されています。「授業科目の概要」表において、「企業等（との連携）」「双方向」「実務家」「実地」の要件チェックとシラバスを求めています。また、厚労省の「教育訓練給付の講座指定」制度とのリンクが可能となっております。

2020年度のBP認定累計状況は、履修証明プログラム233件（うち、短時間52件）及び正規課程101件の計334件となっております。都道府県別にみると、東京・愛知・大阪が半数を占め、新潟・富山・島根・佐賀等の7県では0と、地方圏での取り組みが大きな課題となっております。このような偏りについては、eラーニングや大学間連携等の工夫によって乗り越えられる時代を迎えております。

さて、本セミナーの第一講では、第三段階教育を中心とした学術と職業・社会の接続や往還について、積極的に研究、発信されている滋慶医療科学大学の吉本 圭一氏から、BPを「高等教育／第三段階教育における職業実践的アプローチ」として捉え、ねらいと展開、達成された課題・残された課題、また、学位・資格枠組みによる教育と職業の柔軟な接続について、基調となるご講義を賜ります。

BP 334 件中 233 件と 7 割近くを占めている「履修証明プログラム」について、筑波大学の稲永 由紀氏から、自由度の高い本プログラムの功罪についての検証、創設の意味、制度の現在～編成・体制・実施・質保証、そして将来展望についてご講義を賜われます。

さらに、ケース・スタディとして、4 校の BP 事例を取り上げます。

高崎健康福祉大学の東福寺 幾夫氏からは、大学院の医療福祉情報学専攻修士課程という正規課程を BP に再編成し、認定されています。その認定のねらい、教員組織・カリキュラムと運用の実際、課題と今後の改善方策についてご講義を賜われます。

山形大学の小沢 亙氏からは、農業を目指す若者に就農・自立化のスキルとサポート、食の 6 次産業化の担い手育成のプログラム（162 時間）を、大学が事務局となり自治体、JA 等で構成するコンソーシアムで開講、「食と農のビジネス塾」と「農業スタートアップ塾」について、プログラムの概要や実績、今後の展開についてご講義賜われます。

関西学院大学の 大内 章子氏からは、女性のキャリア形成や学び直しの取組「ハッピーキャリアプログラム」について、創設の背景、「キャリアアップ・起業」と「リーダー育成」、「大学連携オンライン」の 3 コース開設、BP や教育訓練給付金講座の認定、さらに大学や自治体との連携等の取組みの進化について、ご講義を賜われます。

東北学院大学の阿部 重樹氏からは、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）のスキルアッププログラムについて、取組の背景、BP への申請、スケジュールやカリキュラム構成といったプログラムの実際、5 年間の自己点検・評価と今後の展望についてご講義を賜われます。